

病害虫発生予察情報
特殊報第1号

平成元年12月25日
東京都病害虫防除所

タバココナジラミの発生について

1. 発生状況

施設栽培のポインセチアにオンシツコナジラミとは異なるコナジラミの一種が多発生したので、農林水産省横浜植物防疫所国内課にその同定を依頼したところ、本種タバココナジラミ(*Bemisia tabaci* GENNADIUS)と確認された。

タバココナジラミはポインセチアでは主に葉裏に寄生し、葉色に影響を与え、またその分泌物によりすす病を発生させる。このため商品価値は著しく低下する。

東京都で本種の発生が確認されたのはポインセチアのみで、施設栽培トマトなどその他の作物には現在のところ認められていない。しかし、愛知県ではポインセチア以外に、ハイビスカス、ペコニア(アローサなど)、バラ、トマト、ナス、キュウリ、メロンで本種の発生が確認されており(12月15日付愛知県特殊報第1号)、東京都でも今後他の作物、特に施設栽培に発生することが予想されるので注意が必要である。

2. 形態及び生態

成虫： 淡黄色～オレンジ色で白色の翅を持ち、体長は0.8mm程度である。オンシツコナジラミと比較すると体色は濃く、やや小型である。しかし、成虫での区別は容易ではない。

蛹： 長さ0.8～1.0mm、幅0.6～0.8mmの楕円形で、後端がやや細まる。全体は淡黄色で、背面はわずかに隆起し、植物の毛により外縁がくびれた個体が多くみられる。なお、オンシツコナジラミでは全体に厚みを帯びコロケ状となり、トゲ状の分泌物があるため、20倍程度に拡大すれば比較的容易に区別できる。

生態： 成虫は年に少なくとも3回は発生すると思われるが、詳しい生活史は不明。秋に多く、越冬は蛹態で、野外の越年性キク科植物の葉裏などで行われると思われる。

寄主植物： 寄主は極めて広い。ポインセチア、ナス、サツマイモ、ダイズ、キャベツ、ハイビスカス、キクなど栽培植物に寄生するほか、各種の雑草に寄生する。

ウイルス病の媒介： 本種はサツマイモ葉巻病、トマト黄化萎縮病の病原ウイルスを媒介する。

(参考文献 宮武頼夫、Rostria, 32 : 312～313, 1980)

3. 防除対策

本種に対する防除薬剤は登録されていないので、オンシツコナジラミとの同時防除を行い、密度低下をはかる。しかし、本種はオンシツコナジラミと比較して、薬剤感

受性が劣り、多発生下での薬剤防除は大きな効果を期待できない。なお、発生の認められた施設では、栽培終了後、作物を枯死させ、少なくとも2週間以上は次作の栽培を避けることも有効である。

4. その他

コナジラミ類に対する薬剤の効果が劣る場合には、病害虫防除所に連絡をとり、種を確認することが望ましい。